**第59回十六高校対抗水上競技大会**

－第九回運営委員会－

平成25年11月30日 (土)

麹町学園女子高等学校

欠席校: 北園、九段、小金井北、駒場東邦、小山台、東大附属、戸山、成瀬

去る11月30日 (土) に行われました第9回運営委員会の議事内容をお知らせ致します。

～議事内容～ 　　　～配布資料～

1. 準総務について　　　　　　　　　　　　大会運営における準総務について

２．次回の運営委員会までのお願い

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

1. **準総務について**

前回の運営委員会において提案した運営総務及び準総務の募集結果

【現段階での準総務含む総務の総務組成案】

　･委員長　　　　依田　英子　青山学院高等部　卒業3年目

　･副運営委員長　林田　千鶴　都立竹早高校　卒業1年目

　･役員担当　　　松澤　涼太　都立雪谷高校　卒業4年目

　　　　　　　　 浅野　京美　青山学院高等部　卒業1年目

　･会計　　　　　大澤　亜紀　青山学院高等部　卒業2年目

　･準総務 　児島　舞　　三輪田学園　卒業1年目

 　森川　英佑　小石川中等　卒業1年目

 　石井　駿光　筑波大附属　卒業1年目

 　池野　佑哉　京華商業　卒業1年目

 　代市　千晶　麹町学園女子　卒業1年目

この組成において現在の仕事の引き継ぎ、来年度以降の円滑な大会開催を可能とする組成である。

プリント『大会運営における準総務について』参照。

→前回提案された準総務の定義や具体的な仕事内容を紹介。

　各班に総務を交えて、現在行えることや総務としての人材が集まらない原因などについて話し合ってもらい、各自発表。

【なぜ総務としての人材が集まらないのか】

　・学校や各自が参加している団体の都合上、時間を空けるのが難しい：毎月の運営委員会や総務会に出席困難

　・総務に対するイメージがよくない：忙しい、何をやっているのかがわからない、責任が重い

　・現在の役割(運営委員や役員主任など)で精一杯：ただでさえ遅刻早退をしているため迷惑をかけてしまう

　・OBOGからの引継ぎが曖昧なため、運営委員や当日役員ですら厳しい状態

　・総務におけるやりがいやメリットを見いだせない

　・部員数が少ないため、母校の部活運営で精一杯

　・現役に直接現状を共有できる場が少ない：大会の裏側を知らずに卒業してしまう

　・卒業後の生活が水泳から離れてしまっているから意識が向かなくなってしまう

　・中途半端な関わり方ができないから躊躇してしまう

　・声掛けの時期がつかめない：受験校であれば進路が決まるまで(3月頃)参加を明確にできない

　・母校の部活に思い入れのあるOBOGはどちらかというとコーチをやりたがる傾向にある

【現在自分たちにできること】

・仕事を細分化し、細かく指示してもらえればできる

　　・集会ではなく自宅で行えるような仕事であればできる

　　・現役に現状を伝え、助けを求める

【今後の人材募集において】

・総務の紹介をする際に具体的内容を明確に提示し、「忙しい、重い」イメージを持たれないようにする

・準総務としてお願いするのではなく、明確な仕事を依頼する形にする：形から入るとイメージが重くなる

・仕事を細分化し、一人の負担を減らしていく

・経験者がやりがいなどの中身の部分をもっと伝えていく

・各校のコーチに運営位委員会への参加を促し、彼らを通じてより現役に現状を伝えていく

・より早い段階での声かけをする(現役の1、2年生に向けて)：早い時期から危機感や意識が強くなれば促しやすい

・大会中など現役の注目が集まりやすい場での募集や現状共有：現役の運営位委員会への参加も可能

【総務内における広報係の必要性】

都立青山OBより広報に特化したが役職を置くべきではないかという案が出た。

　　準総務、総務を集めるにあたって今後運営委員やコーチ等からの声かけが中心となるのでそれを統括する広報に特化した役職を設ける必要があるのではという理由からである。

　　新たに役職を設けるということであるため総務で検討する。

1. **次回の運営委員会までのお願い**

・メールで送信済みのwebアンケートに回答するよう促す

・次回までに今回の内容を顧問及びOBG・現役と共有しその報告を運営委員会にて行う

・1月18日(土)の運営委員会の会場借用のメールを12月25日(水)までに送る

　　　　　　　　　　　以上